

食安監発0110第1号

平成26年1月10日

各 検疫所長 殿

医薬食品局食品安全部監視安全課長

(公 印 省 略)

食品衛生法第9条第2項に基づく衛生証明書の取扱いについて

標記については、平成12年12月26日付け衛乳第263号により取り扱っているところですが、ポルトガルにおける食肉及び食鳥肉処理に係る規制等の評価を行った結果、当該通知を下記のとおり改めることとしたので、御了知の上、関係業者への指導方よろしく申し上げます。

記

記の1中「ポーランド」の次に「、ポルトガル」を加える。

衛 乳 第 263 号

平成12年12月26日

(最終改正：平成26年1月10日付け食安監発0110第1号)

各 検 疫 所 長 殿

医薬食品局食品安全部監視安全課長

(公 印 省 略)

法第5条第2号に基づく衛生証明書の取扱いについて

輸入食肉、食鳥肉等の安全性を確保するため、本年3月1日に食品衛生法施行規則第2条の3第7号を改正し、公布、施行したところである。

当該規定については、本年12月31日をもって経過期間が終了することから、平成13年1月1日以降輸入されるものに「とさつ等が日本と同等以上の基準に基づき、衛生的に行われた」旨の証明が必須となるため、同日以降の輸入届出時の同証明の取扱いを下記のとおりとするので、遺憾のないようにお願いする。

記

1 受入れの可否

次の国等については、証明を受け入れて差し支えない。

また、その他の国等からの輸入届出が提出された場合には、検疫所業務管理室を通じて当方まで照会されたい。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アルゼンチン、イタリア、インド（家禽に限る）、インドネシア（家禽に限る）、ヴァヌアツ、ヴェトナム（家禽に限る）、ウクライナ、ウルグアイ、英国、エクアドル、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、コスタ・リカ、サンマリノ（イタリアでと畜処理された豚を原料とした製品に限る）、シンガポール（豚肉、鶏肉及びあひる肉に限る）、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、タイ、大韓民国、台湾、チリ、中華人民共和国、デンマーク、ドイツ、ニカラグア、ニュー・ジーランド、ノルウェー、パナマ、ハンガリー、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ペルー（家禽に限る）、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、ホンジュラス、マレーシア、メキシコ、モンゴル

2 1に掲げる国等からの証明書の取扱い

規則第2条の3第7号に係る記載事項が不備である証明に係る食肉等の輸入は認められないが、在京大使館又は本国政府より発行され、規則第2条の3第7号に係る事項を記載した追加証明書が提示された場合にあつては、輸入を認めて差し支えない。